

林木遺伝資源情報

第10号 - 5 2006.9
独立行政法人 林木育種センター



保存コレクションシリーズ No.2

保存コレクションシリーズ - スギの地域品種 -

林木育種センター 海外協力部 生方 正俊

1 はじめに

スギは日本を代表する有用な針葉樹で、本州の青森県以南、九州の屋久島までの冷温帯から暖温帯にかけて分布しています。また垂直分布では、200～1,600mの主に低山帯に生育しています。このようにスギの分布域は広域にわたっていますが、その分布が不連続であるため、地域の気象条件や土地条件による自然淘汰や小さい分集団で生じる機会的浮動によって、互いに特性の異なる多くの地域品種が分化しています(勝田,2001)。

森林・林業百科事典(日本林業技術協会編、2001)では、スギの地域品種として、青森県のアジガサウスギから鹿児島県のヤクスギまで24品種が取り上げられていますが、このうち福井県のハンバラスギ、愛媛県のホウライジスギ及び島根県と広島県のハチロウスギを除く21品種が北海道育種場を除く林木育種センター本所及び各育種場に保存されています。これらの品種及び同事典には取り上げられていない主な地域品種の保存点数を表-1に示しました。全体で400点以上の地域品種が保存されています(平成17年度末現在)。



写真-1 スギ地域品種の保存園(林木育種センター本所)

2 特性評価された主なスギ地域品種

林木のジーンバンク事業で保存している林木遺伝資源は、定期的に特性調査を行い、データ等が蓄積した段階でこれらのデータを取りまとめ特性評価を行っています。以下に保存しているスギ地域品種の

表-1 林木のジーンバンク事業で保存している代表的なスギ地域品種

育種基本区	都道府県名	品 種 名	保存点数
東北	青森	アジガサウスギ	2
	岩手	オオシュクスギ	1
	宮城	マキノサクスギ	1
	秋田	アキタスギ	8
	"	トウドウスギ	3
	"	チョウカイムラスギ	1
	山形	ヤマノウチスギ	3
	新潟	ムラスギ	20
	"	(ムラマツスギ)	17
小 計			56
関東	福島	ホンナスギ	31
	"	(アズマスギ)	15
	長野	クマスギ	11
	岐阜	ハクサンスギ	0
	"	イトシロスギ	18
	"	ムマイスギ	5
	"	(イボラスギ)	14
静岡	(アマギスギ)	18	
小 計			112
関西	富山	タテヤマスギ	9
	石川	ハクサンスギ	1
	福井	ハンバラスギ	0
	三重	ヨシノスギ	0
	京都	(アシュウスギ)	6
	兵庫	シソウスギ	8
	"	ミョウケンスギ	24
	奈良	ヨシノスギ	5
	和歌山	ヨシノスギ	0
	鳥取	オキノヤマスギ	40
	島根	ハチロウスギ	0
	岡山	エンドウスギ	3
	広島	ハチロウスギ	0
	愛媛	ホウライジスギ	0
高知	ヤナセスギ	22	
小 計			118
九州	福岡	(ギョウジャスギ)	10
	熊本	(イチフサスギ)	11
	宮崎	(オニノメヤマスギ)	59
	鹿児島	ヤクスギ	46
	小 計		
計			412

(注)平成17年7月に公開した保存目録から作成。

品種名は森林・林業百科事典(2001)に記載のもの。なお、同事典に未記載のもののうち主なものについて、()書きで示した。

【お知らせ】 林木育種センターでは、林木遺伝資源を試験研究用に種子、花粉、穂木、苗木などで配布しています。厳密に品種・系統が管理されており、皆様の研究材料として最適です。価格は1点あたり消費税込で3,349円です。詳しい内容や入手方法につきましては、本誌裏面に記載のホームページをご覧ください。メールまたは電話でお問い合わせください。

うち、特性評価を行い林木遺伝資源特性表が公開されているものについて紹介します。なお、これらの特性表は、林木育種センターのホームページから見るすることができます。

(<http://labgltnftbc.affrc.go.jp/tokusei.htm>)

(1) 東北育種場に保存しているスギ地域品種

東北育種場には、主に東北地方各地から種子により収集して苗木を養成し、昭和45年に定植したスギ地域品種等が保存されています。これらについて、蓄積された調査データを取りまとめて、林木遺伝資源特性表を作成しています。特性評価した形質は、一次特性(分類・同定に必要な特性)の樹体の形状、樹幹の形状、樹皮の亀裂紋様等、三次特性(収量及び材質等生産物に必要な特性)の樹高、胸高直径、幹の完満性、真円性等です。



写真 - 2 東北育種場内に保存しているスギ地域品種



写真 - 3 九州育種場内に保存しているヤクスギ

(2) ヤクスギ

1993年(平成5年)に世界自然遺産に登録された屋久島には、天然分布南限のスギ(ヤクスギ)が分布しています。九州育種場には、昭和57年からこれらのヤクスギを収集し場内に保存してきました。こ

れらについて特性評価を行い、林木遺伝資源特性表を作成しています。特性評価した形質は、前述の東北地方のスギ地域品種で示した形質に加え、種子が得られたものについて種子の千粒重、球果当たりの種子数等です。またこれらとは別に、平成7年度からヤクスギの著名木26個体から小枝を採取し、つぎ木で増殖したものを遺伝資源保存園に保存しています(詳細は「林木遺伝資源情報第5号-3」を参照)。

(3) 鬼ノ目スギ

九州森林管理局宮崎北部森林管理署管内(宮崎県東臼杵郡北方町)の鬼ノ目山(標高1,491m)とその周辺地域には、通称「鬼ノ目スギ」と呼ばれる天然スギが生育しています。鬼ノ目スギは、九州本土に生育するスギとしては唯一の天然集団であり、集団を構成する個体の中には、林野庁の「森の巨人たち百選」に選定された樹高20m、幹周り9.9mに及ぶ巨木も見られます。

九州育種場では、これらの貴重な林木遺伝資源を保全するため、「鬼ノ目スギ」から穂を採取して、つぎ木増殖により苗木を養成し、昭和61~62年に九州育種場構内の遺伝資源保存園に定植して保存しています。また、保存している個体の特性を明らかにして、将来、育種素材としての活用も図るため、諸特性の調査を実施してきています。

これらについて、これまでに蓄積された調査データを取りまとめて、林木遺伝資源特性表を作成しています。



写真 - 4 九州育種場内に保存している鬼ノ目スギ

引用文献

勝田 征：スギ(森林・林業百科事典・日本林業技術協会編、1234pp、丸善、東京)534-536 2001